

1
法学部

やる気
応援奨学金
Report
Vol.140

法学部独自の奨学金制度
「やる気応援奨学金」を利用した
学生の体験をご紹介します

ワシントンD.C.とは

私は英語研修部門で「2018年度やる気応援奨学金」をいただき、2019年2月にアメリカの首都、ワシントンD.C.に4週間留学しました。ワシントンD.C.といえば、政府の主要機関が集まる政治の中心地というイメージが強いかもしれませんが、公共施設における手話通訳サービスが充実しているなど、聴覚障害者への支援が特に進んでいる都市でもあります。私は日本の聴覚障害者への支援や理解がまだまだ不十分である現実から、アメリカにおいて聴覚障害者への公共サービスが発達している背景に興味を持ち、今回、調査にあたり4つの施設を訪問しました。

世界一静かなスタバへ

「Starbucks signing store」は、「世界一静かなスタバ」といわれる、耳が聞こえないバリスタが働くスターバックスです。1号店はマレーシアのクアラ Lumpur、2号店はアメリカのワシントンD.C.に開店しました。実際に訪問すると、至る所にアルファベットの指文字表があり、簡単な手話を紹介する掲示もありました。商品の注文は手話、もしくはタブレットによる筆談で行い、手話を練習していると店員の方がやさしく教えてくれました。こ



聴覚障害者のための大学「ギャロドット大学」

のように、耳が聞こえない方と身近に交流することができ、手話を使う楽しさを感じられる機会がもつと日本でも増えてほしいと感じました。

ギャロドット大学へ

ワシントンD.C.には、世界で唯一の聴覚障害者のための大学「ギャロドット大学」があります。学生は主に聴覚障害者が対象であり、手話言語学の研究などで有名です。キャンパスツアーに参加して学内を見学すると、手話がしやすいように廊下や道の間隔は広げられ、手話が見やすいようにテー



語学学校の友人と（右が筆者）

聴覚障害者に
やさしい街、
ワシントンD.C.へ

えだ ななこ
江田 菜々子

法学部法律学科3年
栃木県立宇都宮女子高校出身

手話による美術館ギャラリーツアーへ

ワシントンD.C.にある「ワシントン・ナショナル・ギャラリー」「スミソニアン・アメリカ美術館」の2つの美術館では、手話による館内ツアーを行っています。今回、両方の美術館を訪問し、それぞれのツアーの責任者の方にインタビューを行いました。日本では、学芸員の解説を手話通訳者が



美術館にて、ツアーガイドの研修を見学（右端が筆者）

手話で通訳する方式が多いですが、このツアーは耳が聞こえない方が解説し、それを手話通訳者が声で通訳するという、日本とは反対の方式をとっています。学芸員の解説を手話に通訳する方式では、解説と通訳に時差が出てしまうという理由に加え、耳が聞こえないガイドがツアーをすることで、他の来場者が聴覚障害者の存在に対して理解を深めることにつながると、責任者の方はおっしゃっていました。インタビューを通じて、責任者のお二人が聴覚障害者の方と手話という言語に敬意を払い、強い熱意を持ってツアーを運営されていることがわかりました。

調査を通じて

今回の調査を通じて、ワシントンD・C.の聴覚障害者へのサービスが充実している背景には、ギャロデーツト大学の存在が大きく関わっていると感じました。手話通訳の需要が多いだけでなく、ギャロデーツト大学の卒業生による聴覚障害者同士のコミュニティが大きく、強い影響力を持っていることがインタビューのなかでうか

がい知れました。

また、もう一つわかったこととして、手話通訳者の不足があります。アメリカでは、日本と同様に手話通訳者の不足が進み、雇用形態も非正規が半数を占めているようです。いかに手話を広め、手話通訳者の労働条件を向上させるかということが世界的な課題であると感じました。ろう者（聴覚障害者の人）が作り上げてきた言語や文化はとても興味深いものです。手話の勉強を

続けるとともに、手話の魅力を多くの人に伝えていきたいです。

最後になりましたが、今回の留学・調査にあたっては、本当にたくさんの方々に世話になりました。留学を最初から最後まで応援してくださった小室夕里教授、相談にのってくれた友人、先輩、現地で関わったすべてのの方々に心より感謝申し上げます。

法学部独自のグローバル・プログラムのご紹介

From the Faculty of Law



法学部 だより

法学部事務室
ひぐれ 恭兵

現在、法学部では独自のグローバル・プログラムを展開しています。その多くは法学部の公式Webサイトを通過して情報発信しています。専門総合講座の「オーストラリア法律短期留学」や「アクティブ・ラーニング海外プログラム」多文化主義・人権・市民社会」に加え、「国際インターンシップ（スイス・ミャンマー・タイ・インドネシア）」に関する参加学生の体験レポートが公開されていますので、ぜひアクセスしていただき、このプログラムの素晴らしさを知っていただければと思います。

それぞれの体験レポートでは、参加するまでの経緯や現地での活動内容、参加後の感想などが写真とともに公開されています。参加者は、語学の習得のみならず、世界の広さに驚きながらも、それぞれの課題に果敢にチャレンジしています。自分自身の大きな可能性を感じながら、大変充実した日々を過ごしていることを感じていただけるでしょう。

大学在学時に経験する海外でのチャレンジ体験は、一回りも二回りも自信をつけさせてくれるだけでなく、その後の学生生活において、より大きな糧となつて輝かせてくれる価値があるといつても過言ではありません。

法学部では、独自のグローバル・プログラムを通じて多くの学生が海外で活動しており、1年生からでも

参加できるプログラムも提供しています。少しでも関心があれば、ぜひ公式Webサイトをご覧ください。法学部事務室へ相談にきていただければ幸いです。

